

平成28年度

上宮太子高等学校 入学考査問題

国 語

(50分)

〔注意〕 次の(1)～(5)をよく読むこと。

注 意 事 項

- (1) この問題冊子は、「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- (2) 問題は、**1**・**2**です。印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は、挙手して監督者に知らせなさい。
- (3) 解答用紙は、別に1枚あります。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- (4) 考査番号・名前は、問題冊子と解答用紙の両方に記入しなさい。
- (5) 「終了」の合図で、筆記用具を置きなさい。

考 査 番 号				名 前

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文は一部変更・省略したところがあります。)

コミュニケーションは現代社会の中心的問題です。

人と人の関係がうまくいかなければ人生の①大きなストレスの原因になりますし、それは生きる幸福感にも大きく関わってきます。

ここからは、息というものはコミュニケーションをより円滑に、えんかつクリエイティブにしていく「技」として使えるということをお伝えしたいと思います。「ア」

息はセンサーです。センサーというのは、全体の状態にある指標であらかじめ知らせてくれる感覚器官ととらえてください。「イ」

人と人、自分と相手との距離感きよりがどういふものであるのか、もちろん脳でも判断していますが、実は自分の呼吸そのセンサーとして使うことができるのです。

何となく「X」な感じがしたり、逆に、呼吸が楽にできる相手とがいます。あるいは息が弾むはずように浮きう浮きする人。

自分と人との関係というものを、からだは頭以上に敏感びんかんに察知しています。

私たちは普段それを「何となく」受け取ったものと考えていますが、実はからだの状態というのは、人と自分とがどのような距離間にあるのかを的確に示している。その一番分かりやすい指標が息なのです。

自分の息に敏感になるといふことが、他の人との関係を敏感に察知することになります。人と人との関係をよくしていこうと考えるなら、まずは自分の息に気づくこと、息に②シウテンを当てることから始めましょう。

そして、相手の呼吸を感じとっていく。「A」、「うなずく」。相手が話しているリズムに合わせて、うなずく。

話をする時、相手は必ず息を吐いているものですが、タイミングを合わせて一緒に吸う。話し始めたら、うなずきながら息を吐く。

話に合わせて息を吐いていると相手の身体に同調しやすい。

テンポが一致してくるので、相手に対して他人のような気がしなくなります。「ウ」
自分の息、他人の息に対する細やかな気づき。日本語には息に対する感性がとてもみずみずしい形で立ち現れています。

呼吸というのは自然なもの⑥ですが、「息づかい」という言葉があるように、息は人が自在に⑦アヤツることができ、さるものとしてとらえられていました。⑧息づかいにおける表現は、大変豊富です。「エ」

「息を合わせる」と言うと、相手に気持ちを合わせるとか、場にテンポを合わせるといった意味。

「呼吸をつかむ」と言えば、コツをつかむこと。ある技術を⑨会得する時の身体的感触を指していますし、「息を盗む」とくれば、芸道などを見て、まねから技の要領をつかむことです。

「息がかかる」と、親分・子分の関係のように人は結びつく。

「息を凝らす」と I 【わけですし、「息が続く」と、集中力が続く状態のことです。

「息の長い」作品だとくれば、その作品の強い生命力を表している。

「息が通う」は、II 【こと。

このように、日本人は人との関係、世界との関係というものを、息を通して敏感に感じ取っていた。呼吸を軸に向かい合っていた。

そういう精神性が言葉づかいに表れていましたし、言葉がそういう息に対する⑩細やかな感性を開いていたのです。⑪センサーとしての息の役割は、そのまま「間合い」に対する感性とつながってきます。

日本文化は間の文化だと言われてきました。その間を支えていたのは、他でもない⑫呼吸の技でした。

息を吸う、溜める、放つ——その長さや④強さ、タイミングの合わせ方、ずらし方をコントロールすることで、見事な間ができ上がるのです。

例えば息を溜めた状態と放った状態とを、間によって巧みにあやつるのが笑いの芸の④真骨頂です。

演者はぐっと息を溜めて、次に何が来るのかと観客や聴衆の期待を高まらせておき、ぐっと一呼吸置いたところでポンと面白いことを言う。だから息がどつと吐き出され、笑いになる。

笑いの間というのは、息を凝らして何かを一気に放出したいというきっかけを待っている時間です。そのズラシの間が絶妙なほど、大きく弾けることができます。

そのためには、演者のほうは絶えず聴衆の呼吸を感じていなければなりませんし、観客のほうも話の息というものを感じていないと、息を溜めに入ることができません。観客は、演者の呼吸を感じ取ることで、その呼吸を自分のからだでなぞっているのです。

ですから、落語家が、例えば志ん生が噺の途中で一呼吸置いたら、聴衆のほうも一緒に息を溜めて待つ。そして、一言ポツとのたまわったところでどつと笑う。客は演じ手の息に寄り添って、息の間合いを心から笑い、楽しんでのです。

息の間を感じつつ、相手との距離感を感じるということは、それだけで②ミツドの高い、人生の喜びでした。

剣術の立ち合いにおいては、必ず一対一で、非常に張りつめた空気を感じつつ、互いの呼吸を見計らいながらやる。

単純に勝ち負けを決めるのであれば、さっさと斬り合えばいい。大勢で一人をやっつけてしまえば早い。倒せばいいというだけなら、種子島への伝来以降、鉄砲だつてあつたわけです。

B、⑤そんなことではなかった。悠長なことに、戦時の対決においても武士同士は互いに名乗りあつていました。

決闘けつとうといえども、人と人とのやりとりで礼を失してはならなかったし、立ち合いの⑥醍醐味だいごみは二人の間合いにあると見ていたからです。

自分の刀が踏み込む速さはどのぐらいか、どの程度の距離までは近づいてもいいかを瞬時に判断し、じりじりとしじり寄る。その間合いを詰めたり離したりすること、相手の呼吸を推し量ること、それもまた互いの力量のうちと考えられていた。

これは、間の面白さを感じ取れる人でなければC理解できない世界です。

日本人の、互いの息を感じ取る感覚を大事にしようという精神性は、戦いという空間であっても、茶の湯のような静寂せいじやくな空間であっても、笑いを得るために人々が集まる⑧寄席の空間であっても、みな同じだったのです。

間合いは、人とのコミュニケーションを左右するかなめです。間のつかみ方のうまい人はコミュニケーションの仕方でも上手です。

他の呼吸を感じ取って、場の流れやテンポにタイミングを合わせていくことは、ひるがえって、自分にとって気持ちのいいリズムとは何かを知ることにもなります。

自分に固有のテンポを見つける、一番自分らしくいられる快適なテンポを見つけ⑦られると生きやすくなります。

自分の中で自分が一番調子のいいテンポというのはどのぐらいのテンポなのか、自分が調子が⑨よくなる呼吸のリズムはどういうリズムなのかということ、普段から感じ取っていくとコミュニケーションが格段に楽になる。

自分の息のリズムで生活できている人はあまり疲れないですし、他の人のリズムを感じることも上手です。

(齋藤孝「呼吸入門」)

※「クリエイティブ」……創造的。独創的。

※「志ん生」……東京の落語家。古今亭志ん生のこと。

問1 傍線部㊸㊹㊺のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問2 傍線部㊻㊼㊽の品詞名として最も適当なものを、それぞれ次のア㊾クから一つずつ選んで、記号で答えなさい。
(ただし、同じ記号は使ってはならない)

ア	名詞	イ	動詞	ウ	形容詞	エ	形容動詞	オ	連体詞
カ	副詞	キ	助動詞	ク	助詞				

問3 次の文を本文に入れるとしたらどこに入りますか。最も適当な場所を【ア】【イ】【ウ】【エ】から一つ選んで、記号で答えなさい。

人間は、自分のからだのリズムが同じものに対しては非常に受け入れやすくなります。

問4 本文中の【X】に入れるのに最も適当な言葉を、次のア㊿エから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 息が合いそう イ 息がつまりそう ウ 息があがりそう エ 息が絶えそう

問5 本文中の【A】㊿【C】に入れるのに最も適当な言葉を、それぞれ次のア㊿カから一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア 例えば イ しかし ウ 決して エ たとえ オ だから カ なぜなら

問6 傍線部①「息づかいにおける表現」とありますが、この表現からわかる「日本人」の精神性とはどのようなものですか。本文中の言葉を使って答えなさい。

問7 本文中の【Ⅰ】Ⅱ【Ⅲ】に入れるのに最も適当なものを、それぞれ次のア㊿オから一つずつ選んで、記号で答えなさい。

- ア ぐつと息を止めて緊張を維持している
- イ 生きていくということ、生命感があふれている
- ウ お互いに意思の伝達が上手くできています
- エ 途中で一休みする、気分転換のための休息をとる
- オ よそ見をせずに、一つのことだけに集中している

問8 傍線部②「センサー」としての息の役割」とありますが、このセンサーによって何を感じ取っているのですか。本文中から十字で抜き出して答えなさい。

問9 傍線部③「呼吸の技」とありますが、この技にあてはまらないものを、次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 落語家が話をする時に、聞き手の呼吸がどのような状態か把握はあくしながら話をする事。
- イ 落語家が聞き手から大きな笑いを引き出すために、途中で一呼吸置いてから話をする事。
- ウ 剣術で対決するときにわざと時間を引き延ばして、緊張感を作り出し相手の呼吸の状態を理解すること。
- エ 剣術で決闘するときにはすぐには始めず、相手の呼吸を感じ相手との距離感の見当をつけること。

問10 傍線部④「真骨頂」・⑥「醍醐味」の意味として最も適当なものを、それぞれ次のア～エから一つずつ選んで、記号で答えなさい。

- ④ 「真骨頂」
- ア 大衆に認められる理由
- イ 裏表のない純粹さ
- ウ 本音と建て前の部分
- エ そのもの本来の姿

⑥ 「醍醐味」

- ア 上品な味わい
- イ 本当の面白さ
- ウ 緊迫した状況
- エ 滑稽こっけいなおかしさ

問11 傍線部⑤「そんなこと」とありますが、どうすることを指していますか。本文中の言葉を使って答えなさい。

問12 傍線部⑦「られる」とありますが、この「られる」と同じ使われ方をしているものを、次のア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 二学期に転校していった友達のこと案じられる。 イ 兄とけんかをして布団の上に投げられる。

ウ その程度の問題なら小さな子どもでも答えられる。 エ あなたが来られる時には、おもてなしをします。

問13 本文の文章展開の説明として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 筆者は、自身の考えと異なる考え方に対して、受け入れる姿勢を取りながらも明確に批判し、自身の意見の正当性を強調している。

イ 筆者は、自らの考え方を補強するために多くの事例を紹介し、より広い分野において自身の考え方が該当することを示している。

ウ 筆者は、一つの主題を述べつつ複数の話題を登場させることで、読み手の想像力をかき立てている。

エ 筆者の取り上げた話題は、広く一般に当てはまるものではないが、最終的に説得力を持つように主題を変化させている。

へ
問題は次のページに続きます。
へ

2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ある山寺に、徳※たかく聞こゆる聖※ひじりありけり。年ごろ、堂※を建て、Xつくり、さまざま功徳※くどくをいとなみ、①た

(徳が高いと評判の)

(長年)

(積んで)

ふとく行ひけるが、終りめでたくてありければ、弟子もあたりの人も、②うたがひなき往生人と信じて過ぎける程に、

(亡くなるときも、安らかな最期であったので)

(過※ぎしていたところ)

ある人にかのYの霊つきて、③心得ぬさまの事どもいふ。

聞けば、はや天狗てんぐになりたりけり。弟子ども、④思ほかひの外なるここちして、⑤いみじく口惜しく思へども、力なく

(すでに)

(手も尽くせず、

おぼつかなき事など問ひければ、不思議の事どもいふ中に、「我が在世の間、⑥ふかく名聞※みやうもんに住して、なき徳を称

こうなった理由が

(生きていた)

(こたわって)

はつきりしないなどと)

じて人をたぶろかして作りし仏なれば、⑦かかる身となりて後は、此の寺を人の拝みたふとぶ日に、我が苦患くかんまさる

(ありがたく思う)

(増えていく)

なり」と(A)いひけれ。
のだ)

いみじき功德をつくるとも、心とどのはずは、かひなかるべし。「今の事なれば、名はたしかなれど、ことさら

(最近の)

(その聖の名前)

(あえて)

⑧あらはさずとぞ、ある人語り侍りし。

明らかにしません)

(「発心集」)

※「徳」……道を悟った立派な行為

※「聖」……徳を積んだ僧侶のこと

※「堂」……神仏を祭る建物

※「功德」……よいめぐりあわせをもたらすもとなる行い

※「名聞」……名誉、名声

※「苦患」……地獄などに墜ちた人が受ける苦痛

問 1 空欄 X・Y に当てはまる語句を、本文中から漢字一字で抜き出して、それぞれ答えなさい。

問 2 傍線部①「たふとく」・②「うたがひなき」・⑧「あらはさず」を現代かなづかいに改め、すべてひらがなで答えなさい。

問 3 傍線部③「心得ぬさまの事ども」・⑤「いみじく口惜しく思へども」の意味として最も適当なものを、それぞれ次のア～エから一つずつ選んで、記号で答えなさい。

③ 「心得ぬさまの事ども」

- | | |
|---|-------------|
| ア | わかりきった事など |
| イ | 聞いたことも無い事など |
| ウ | 納得しがたい事など |
| エ | 解明されていない事など |

⑤ 「いみじく口惜しく思へども」

- | | |
|---|-------------|
| ア | 大変興味深いと思ったが |
| イ | 大変残念に思ったが |
| ウ | 大変薄情だと思ったが |
| エ | 大変腹立たしく思ったが |

問 4 傍線部④「思ひの外なるこちして」とありますが、それはなぜですか。説明しなさい。

問 5 傍線部⑥「ふかく名聞に住して」とありますが、主語は誰ですか。本文中から抜き出して答えなさい。

問 6 傍線部⑦「かかる身となりて」とありますが、原因はどのようなことですか。最も適当なものを、次のア～エ

から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 自分に徳もないのに、一生懸命に頼み込んで仏像を作らせたこと。

イ 徳もない人々と一緒になって仏像を作ったこと。

ウ 自分は徳もない事を偽り、人をだまして仏像を作らせたこと。

エ 見た目のよくない仏像を作ってしまった、未完成のまま投げ出したこと。

問7 「(A) いひけれ。」とありますが、この部分には係り結びの法則が使われています。(A)に入る語

として最も適当なものを、次のア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア ぞ イ ども ウ ば エ に オこそ

問8 本文は鎌倉時代に成立した『発心集』からの出題です。この作品と同時代に成立したものを、次のア～エの中

から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 奥の細道 イ 枕草子 ウ 竹取物語 エ 方丈記

問9 この文章を通して、作者が伝えたい内容として最も適当なものを、次のア～エから一つ選んで、記号で答えな

さい。

ア 何事も一生懸命に取り組めば、必ずむくわれるということ。

イ いくらよい行いをして、気持ちが悪くてもいなければ意味がないということ。

ウ 何事も一生懸命に取り組み、失敗をおそれないことが大切だということ。

エ いくらよい行いをしたとしても、必ずむくわれるとは限らないということ。